

首相官邸で 福島のおま〜いモモをPR



首相官邸にて安倍首相に福島県産のモモを贈呈しました
(写真提供 JA 伊達みらい)

7月18日、東京電力福島第1原子力発電所事故に伴う「風評被害」を払拭しようと、太田久雄町長、JA 伊達みらいの関係者らが首相官邸、関係省庁を訪れ、福島県産農産物の安全性をPRしました。

首相官邸では、安倍晋三内閣総理大臣に、早生の「日川白鳳」を贈り、味わっていただきました。安倍総理からは「早生でもこんなに甘いんですね。美味しいモモです」と言葉をいただき、風評被害払拭に向けた一層の協力も約束し

ていただきました。

首相官邸の訪問に続いて、関係各省庁を訪問しました。各省庁でも、モモの安全性や美味しさをアピールし、それぞれ風評被害の払拭に向けた協力を要請しました。

また、今回は大田市場でも風評被害払拭のキャンペーンを行い、直接市場関係者などに、伊達地域の農産物の美味しさをPRしました。



あまい〜モモ、みずみずしいキュウリを試食する市場関係者

モモ穿孔細菌病の 原因究明を要望



7月22日、太田久雄町長が福島県果樹研究所を訪ね、国見町内で大量発生している「モモ穿孔細菌病」対策についての要望をしました。

太田町長が、国見町の現状を説明した後、穿孔細菌病の原因究明、抜本的対策の研究、モモ産地維持のために関係機関の協力体制構築などを要望すると果樹研究所の安倍充所長は、「穿孔細菌病で苦労している農家の思いにこたえるため、しっかりと対応したい」と応じました。

今年も、艶やかな姿を 水面に写しだした「蓮」

花は9月上旬頃まで見ることができません。

7月6日、阿津賀志山防塁を望む下二重堀地内の蓮池で、世界遺産に登録されている平泉町の中尊寺から、平成21年に町が譲り受けた「ハス」が見頃を迎え、太田久雄町長、氏家博昭中尊寺蓮育成会会長らが参加し開花式が行われました。

中尊寺ハスは、国見町中尊寺蓮育成会が栽培管理し、今年は約45万の蓮池に約1万輪の花が咲く見込みです。

開花式では、奥州合戦と東日本大震災の犠牲者の鎮魂を祈り、黙祷をささげました。氏家博昭会長のあいさつと来賓祝辞のあと、初夏の青空の下、国見フラウエンの合唱に合わせて参加者全員で「花は咲く」「ふるさと」を歌いました。



蓮の魅力と奇跡

7月19日、国見町観月台文化センターで国見町中尊寺蓮育成会主催の講演会が開催され、約120人が参加しました。

講師の恵泉女学園短期大学名誉教授の長島時子さんが、「中尊寺蓮の魅力と奇跡」と題して講演しました。

昭和25年、中尊寺金色堂で藤原氏の遺体調査が行われ、その際に四代泰衡公の首桶の中から発見されたハスの種子を長島時子さんが、たった2粒の種から苦労を重ね平成10年に、一輪の花を開花させたことなどを話されました。

会場からは、時折笑い声や、先生の話に大きくうなずく姿が見られました。

ぜひ、みなさん艶やかな姿を見せている「中尊寺ハス」を、観にお越しください。蓮は、昼にはしぼみしますので、早起きして、咲き誇っている「蓮」の姿を見てください。



長島時子さん